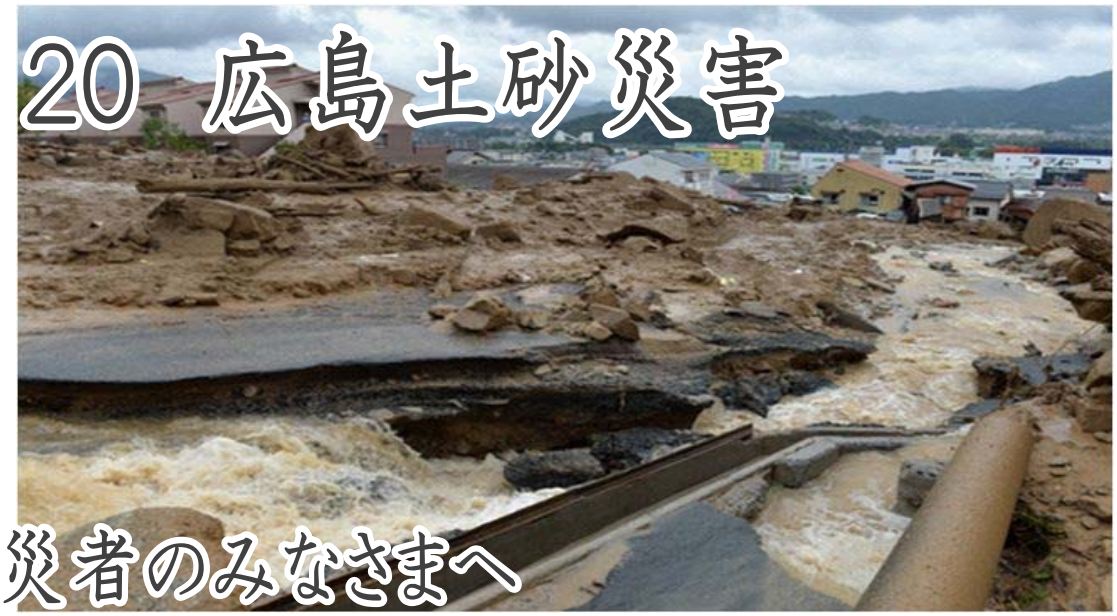
ASUKA

ニューズレター あすか

2014 9月号

通算258号　　2014年9月10日

8．20 広島土砂災害



被災者のみなさまへ お見舞いとお悔やみ申し上げます

8月19日夜から降り続いていた豪雨と激しい雷鳴に、不安と恐怖を感じながらも人々は眠りにつきました。しかし、翌20日未明、突如、非常事態が広島県北部を襲います。時間が経つにつれ雨足は強まり、道路は冠水。そしてついにその不安は的中し、豪雨は未曾有の災害を引き起こしたのです。

20日午前3時20分から40分にかけて、局地的な豪雨が安佐南区山本・緑井・八木、安佐北区可部で発生しました。豪雨は住宅地後背の山を崩し、同時多発的に大規模な土石流を発生させ、4時20分頃には可部3丁目付近の根谷川を氾濫させました。

夜が明けると、辺りは想像を絶するほど変貌しており、瓦礫と土砂の山と化していました。一夜にして街はカタチを変えてしまったのです。この災害で多くの人々の心が傷を負い、多くの尊い命が犠牲になりました。心よりご冥福をお祈りいたします。

そして、9月10日現在、いまだあと1名の行方不明者の捜索が続いています。1日も早い発見を願っています。

そんな中わたしたちは、いてもたってもいられなくなり「何か力になりたい。少しでも誰かの役に立ちたい」という想いで動き出しました。支援物資の提供、お風呂の無料開放、ボランティア活動、ショートステイの臨時受け入れなどです。わたしたちができることは些細なことですが、地域のみなさんが少しでも笑顔になれるならと思い、続けています。1日も早くみなさんに笑顔が戻ってくるように、できる限りのサポートを続けていきたいと思います。

“ニューズレターあすか”は
当法人のホームページ上でも見ることができます
http://www.asuka-net.or.jp

発行元：医療法人あすか
（ 編集：新宅　佳那子 ）
住所：〒731-0103
広島市安佐南区緑井2 丁目12－25
TEL:082-879-3143　　FAX:082-879-3190

【目次】　【ページ】

1．8．20広島土砂災害の記録①・・・・・・ 1
8．20広島土砂災害の記録②・・・・・・ 2
8．20広島土砂災害の記録③・・・・・・ 3
8．20広島土砂災害の記録④・・・・・・ 4
2．わたしの好きなもの　第8回・・・・・・・ 5
3．事業所だより（野ばら）
4．おもしろきかな我が人生
～峯岡　豊子さん～・・・・・ 6
5．若竹句会　8月作品抄・・・・・・・・・・ 7
6．Hello, フレッシュマン（2）
7．あすかケアプラザのお知らせ・・・・・・・ 8

【通所事業所営業停止について】

8月20日の土砂災害により利用者様の安全第一を優先とし、通所事業所の営業を停止しました。

当日の朝、雷と豪雨で胸騒ぎがし、ただ事ではないと感じました。各事業所の所長、運転手が早めに自宅を出発しましたが、途中、道路の冠水、信号機の停止、鳴り止まぬ緊急車両のサイレンに身体が震えました。できる限りの情報収集を行いましたが、「安全面が確保できない、安全が第一」との判断で営業を停止しました。

その後、居宅介護事業所への連絡、全利用者様の安否確認を行いました。その中で改めて、大変な状況になっていると感じました。それから、何名かの方が避難所に避難されているとの連絡が入り、各所長が避難所へ向かいました。土砂でなかなか前に進めず不安でいっぱいでしたが、避難所で利用者様、ご家族に会えた時は言葉にならず、安心と安堵で涙があふれました。

営業停止により、みなさまにご心配とご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。今後も「利用者様の安全を第一」とし、その日その時の状況に合わせた対応をさせていただきます。みなさまには引き続き、送迎時間の変更等でご迷惑、ご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。（通所介護事業所　統括課長　丸澤　立子）

【入浴解放】

今回の災害により避難所での生活を余儀なくされている方々に「あすかとして何かお役に立てないか」との思いで8月22日より「無料入浴解放」を始め、緑井小学校、毘沙門台小学校へ避難されている方々へ声をかけました。すると、避難されている方々が当日より利用してくださいました。みなさまの「気持ちよかった」との言葉に職員の胸が熱くなりました。

その後は佐東公民館も対応し、できるだけ避難されている方の負担が少なくなればと17時、18時、19時に送迎を行うことにしました。迎えの職員が避難所で待機していると、泥だらけになって戻って来られた方が「今日も来てくれたんだね！」「家の給湯器が直らんかったら、明日お願いね」「息子が学校から帰ったら行くから」など声をかけてくださいました。

みなさまに少しでも元気になっていただこうと思い始めた入浴解放ですが、みなさまとふれあい何気ない会話をする中で、私たちが元気をいただいています。

あすかは常日頃から地域の方々にお世話になっています。入浴解放は、私たちが地域の方々にできる些細なことですが、今後も避難されている方が「自分の家の気持ちいいお風呂」に入れるまでは継続していきます。みなさまのご利用を職員一同心よりお待ちしています。

（丸澤　立子）

【支援物資】

法人の具体的な支援として、まず物資の支援を行いました。災害の発生日から各避難所に足を運びました。物品の選定にあたっては、みなさまの意見や実際に避難所の物資を見て、必要と感じたものをお届けしました。高齢者の排泄関係のもの（紙オムツはあるけれど紙パンツが少ないなど）、歯ブラシや歯磨き、離乳食や粉ミルク、また避難所によっては子ども用のお菓子や洗濯用のロープなど、実際に見たり聞いたりすることでたくさんの気づきがありました。

また、被災した子どもたちの心のケアのためのパンフレットについて、災害対策本部を通じて各避難所に配布させていただきました。

どの避難所でも私どもの声に快く、そして迅速にご対応くださり、お陰様で物資の支援につなげることができました。ご対応いただいたみなさまに、この場を借りて感謝申し上げます。

（介護事業部　部長　保田　和彦）

【当日の様子（ケアマネジャーからの報告）】

A様　女性

電話で安否確認をしたところ「大丈夫」とのことでした。しかし、自宅周辺の状況が分からず、情報を集めるにつれ、付近で大きな被害が出ていることが分かりました。

遠方の親族からも連絡が入っていたこともあり、1人で自宅にいるのは危険と判断し、急遽数日でも泊まれるショートステイを確保しました。ショートステイ利用後は親族が迎えに来られ、親族の家でしばらく生活することとなりました。

B様　男性

ご家族より床上浸水と土砂により、外に出ることができないと連絡がありました。その後、警察官により救出されました。ケアマネジャー2人で自宅に向かうと、家の外で待機されていました。本人はショートステイへお送りし、ご家族は小学校へ避難していただきました。

C様ご夫婦

ご主人が入院中、奥様がショートステイ入所中に八木の自宅が被災されました。自宅は甚大な被害に遭った地域で、車はもちろん徒歩でも近づけない状況でした。

1週間後、近所の方から遠回りをすると近くまで行けると連絡をいただいたので、ケアマネジャー2人でご本人の代わりに自宅の状況を確認に向かいました。自宅は上から流れてきた車が玄関に突っ込んだままで、車ほどの大きさの岩が玄関の周りを埋め尽くしていました。半壊でしたが自宅内にも多量の土砂が入り、長靴でも足をとられて歩けない状況でした。自宅の写真を撮り、ご主人に家の様子を説明しました。現在は今後の生活についてご本人、地域包括支援センターの社会福祉士、入院先のソーシャルワーカー、親族の方と相談中です。

D様　男性

安否確認ができず、娘様へ連絡を取りました。娘様は同居されておられず、同様に連絡が取れないとのことで、スタッフが自転車にて自宅へ向かいました。

緑井周辺を走っていると、道路に大量の泥や土砂が流れ込み、近所の方がスコップやホースで清掃をされていました。また、消防隊や警察も道路の整備等に来ていました。

自宅に着くと、お2人も家も無事だったものの、家の側面が崩れていました。D様が「ここを片付けんといけん。せめてこの看板（この先土砂崩れあり）を立てとく」と言われ、自宅の駐車場に立てられました。

しかし、まだ危険だと判断し、急遽つどいの家へ緊急避難をしていただきました。その際、D様ご夫婦が高橋内科小児科のつどいの家へ避難することを近所の方に伝え、その場を後にしました。

E様　女性

自宅への道は土砂や水が溢れて川の様になっており、安否確認ができなかったため、近所の方に回り道を教えていただきました。

途中、道を歩くことはできましたが、交差点では電柱や木が倒れて車が2台ぶつかった状態で道をふさぎ、道路はえぐれ、排水管や下水管がむき出しになった状態でした。そのため、今は動けないと判断し、つどいの家へ戻ることにしました。

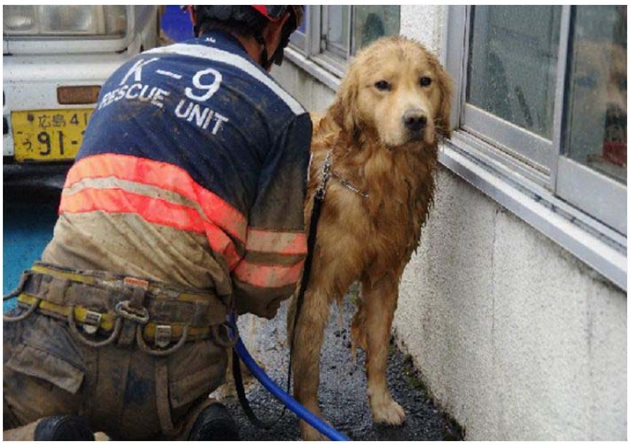
その後、ご家族より「今から救急隊によって避難します。家は危ないからつどいへ避難することは可能ですか？」と連絡が入りました。受け入れ可能なことを伝え、スタッフもすぐに自宅へ向かいました。E様が担架で救出されるのを確認し、ご家族も無事なことが確認できたため、つどいの家へ避難していただきました。

【ボランティア・レポート】

毘沙門台にある権現山から、あるお宅に流れ込んだ土砂を取り除く、ボランティア活動のお話です。

マスコミではほとんど報道されませんでしたが、毘沙門台東でも権現山からの土砂崩れがあり、住宅に土砂が流れ込みました。地面と玄関の境はなく、住人の方でも見分けがつかないほどの量。少しでもお手伝いができればという思いで、ボランティアを申し出ました。スコップで土砂をすくい、バケツで集め、それを1か所に集める、その作業の繰り返しです。土砂は多量の水分で重くなっているため、ほんの数分で汗が噴き出すほどの重労働でした。

みなさんが一心不乱に手を休めず作業を続けている姿からは、「この場所を1日でも早く元のかたちに戻したい」という強い想いが感じ取れました。十分なお手伝いはできませんでしたが、この活動を通して地域の繋がりを強く感じることができました。常日頃からの地域の方々とのかかわりの大切さを感じていましたが、より一層感じることができた1日でした。（しゅりあちょーく　所長　大石　圭吾）



【子どもたちの心のケア】

今回の災害では幼い子どもたちも犠牲になりました。そして命は助かったけれど怖い体験をした子どもたちがたくさんいます。そんな体験をすると急性ストレス障害（心が混乱した状態）を起こすことがあります。なかなか寝付けない、小さな物音にもびっくりする、しがみついて離れない、表情が少なく、ぼーっとしていることが多い、イライラして暴れたりするなど、さまざまな症状がみられます。

このような子どもたちを見たら、そばにいる大人たち（保護者、近所の人、学校や幼稚園・保育園の先生、医師など）が守ってあげることが必要です。災害が起こってすぐ、広島県小児科医会こどもの心委員長の河野政樹先生が今回の災害に合わせた「子どもたちの心のケア」のパンフレットを送ってきてくださいました。高橋内科小児科では、パンフレットをたくさんコピーして避難所に届けたり、外来受診された保護者の方にお渡ししたりしています。パンフレットご希望の方や個別のカウンセリングが必要な方は高橋内科小児科までご連絡ください。

（パンフレットから一部抜粋）

◎ 恐かったことや、悲しかったことをゆっくり聞いてあげてください。

「もう、大丈夫」

「お父さんや、お母さんが
　しっかり守ってあげるからね」

「心配なことがあったら
　なんでも言ってね」

「あなたはちっとも
　悪くないんだから」

「○○ができなくなっても
　恥ずかしくないんだよ」

これらのことばは、何度繰り返してもかまいません。

◎痛いところがあったらさすってあげましょう。

◎できるだけお子さんを1人にしないであげてください。

こういった対応は、少なくとも2～3カ月間から半年間、また必要に応じて、それ以降も絶えず繰り返し続けて下さい。

（高橋内科小児科　副院長　高橋真弓）

【義捐金（ぎえんきん）】

医療法人あすかは安佐医師会を通じて、100万円寄付させていただきました。

わたしの好きなもの 第八回

つどいの家
西岡（にしおか）　君江（きみえ）さん
【農業】

西岡さんは大朝生まれの79才、5人兄弟の末っ子です。ご実家が農家なので幼い頃から農業を手伝っていました。結婚して緑井に転居してからも、ご主人のご両親とご主人と一緒に農業を続けてこられました。

つどいの家での園芸活動ではその豊富な経験を活かして、他の利用者様や私達スタッフにも植え方や育て方等をアドバイスしてくださいます。

今でも、ご自宅の田んぼや畑に行き、田んぼの水が行き届いているかを確認したり、畑の草抜きをしたりしています。収穫時期には息子さんたちの手伝いもされています。つい最近では小カブを農協へ出荷され、今も野菜作りに精を出す西岡さんです。

最後に「お父さんが亡くなって、息子も忙しいから、もう畑仕事も辞めにゃいけんかと思っとりはするんです。それでも、手伝ってくれる人が畑を良くしてくれてね。お父さんと作った畑が続けられるのがとても幸せなんです」と笑顔で話してくださいました。

これが種芋です

さて、始めようかね!?

畑に出る前にいつもの
“装備”バッチリです!!

いつでも明るく楽しい方で、誰とでもすぐに仲良くなれる優しいお母さんです。（竹村 和哉）

69年目の祈り ～ヒロシマ原爆の日～

8月1日（金）
【野ばら】

今年もしゅりあちょーく・野ばらの利用者様、ご家族の皆様に協力して折っていただいた千羽以上のたくさんの折り鶴。平和への祈りを込め、平和公園に献納しました。

その後、昼食を神田山荘内のレストランでいただきました。市内が一望できる特等席です。ある利用者様は外を眺め「戦争で何もなくなったのに今はこんなに高い建物がたくさん建ってから。すごいね」と驚かれていました。

当時のことを少しだけお話ししてくださる方もおられ「平和な今が一番幸せよ」と言われた言葉が心に残り、私たち職員も平和の大切さをまた改めて考える機会となりました。（清水 彰子）

一生懸命折ったからね

無事に献納しました

美味しく食べれて幸せだね☆

肺炎球菌ワクチンが定期予防接種になります

10月15日（水）から高齢者肺炎球菌ワクチンが定期予防接種になり、自己負担4700円で接種できます。今年度より5年間は65歳から5歳間隔の年齢で、これまでに接種したことがない方が対象です。ご希望の方は、ご自宅に届く接種券と予診票を持ってお越しください。詳しくは、高橋内科小児科（082－879－3143）までお問い合わせください。

ショートステイみどりい　おもしろきかな我が人生

峯岡（みねおか）　豊子（とよこ）さん

昭和５年１１月２５日生まれ（８３歳）

＊お住まい：安佐南区相田

＊趣味：料理（美味しい物を食べること）、洋裁

■子どもの頃

生まれは賀茂郡西条です。柿とお酒が有名な所ですね。有名なだけあって、酒蔵が近所にたくさんありましたよ。昔は田んぼもたくさんありましたよ。

家族は両親と兄と姉が２人ずつで、私が５人兄弟の末っ子でした。父はすごく優しくて、とても可愛がってくれました。砥石の外交をしていて、酒蔵にもよく仕事で行っていましたよ。母は和裁の仕事をしていて、私たち兄弟の着物を縫ってくれましたよ。上の兄は優しくて、下の兄は少し厳しい人でした。姉は二人とも優しくて、きれいな人でした。

小学校も中学校も大きい学校でね、１クラス40人位おりました。小学生の時は算数と社会科が得意でしたね。休み時間には皆で、縄跳びやゴム跳びをして遊んでいました。ゴム跳びは私が一番上手だったんですよ。

中学生の頃は友だちと遊ぶ方が楽しくてね。毎日楽しく過ごせて幸せでしたよ。制服は、襟に三本線がある紺色の格好良いセーラー服でした。

中学を卒業してからは賀茂高校に進学しました。女学校でね、白いスカーフのセーラー服でした。女学生時代はスカーフでどうおしゃれをするかが、当時の女学生の間で流行っていたんですよ。

■憧れの先生

高校時代は音楽の大村先生に憧れていて、音楽の時間が大好きだったんです。優しいけれど、歌の時間になると厳しい先生でした。当時のピアノは高級品で一台しか無くて、皆で順番に弾くんだけど少ししか触れなかったから、もうピアノを弾く時が楽しみでしたね。家にピアノが無くて練習できないから、ピアノの先生の夢は諦めたんですよ。

高校卒業後は、県庁の会計課に勤めました。男性が多い職場でしたが、雰囲気が良かったですね。お給料が少なかったので洋裁の勉強をしようと思い、白百合洋裁学校に通っていました。ミシンの良いのを一台買ってもらい、姉と一緒に使っていました。学校で習った事は熱心にノートにとっていましたよ。

よく縫っていたのはブラウスですね。もちろんスカートも。易しいものから習い、だんだん難しい服になっていきました。一番難しかったのは紳士服ですね。でも、ノートにとった事を活かして自宅や学校でたくさん練習して、上手になっていきました。

洋裁が上達したのは谷先生のおかげです。一生懸命勉強したおかげで、東京の高島屋や三越から仕立ての注文が来るようになり、時には夜なべをして作って東京に送っていました。私の服は結構評判が良くてね、嬉しかったですよ。

■ご主人との出会い・結婚

農林省に勤めていた主人とはお見合い結婚でした。試験場で主人を見かけた職場の友人が、私に紹介してくれたんです。仲良くなるにつれて好きになりました。なかなかのハンサムでしたよ。

25歳で結婚し、28歳で長女を授かりました。結婚してからは主人が岡山へ転勤となり、娘の高校受験の時に広島へ戻りました。働きながら子育ては大変でしたよ。娘にも音楽が好きになって欲しいと思い、ピアノを買いました。上手に弾いていましたよ。

土地だけは広島に買っていたので、洋裁で貯めたお金と主人のボーナスで庭付きの家を建てました。ピアノは洋間に置きました。庭には植木（松やボウガシ）をたくさん植えて、プランターにも季節の花を植えて育てていたんですよ。

家を建ててからの楽しみは、お家の中をピカピカに掃除してお部屋を飾る事でした。娘がお嫁に行った時は寂しかったけど、孫ができてからは楽しくてにぎやかになりました。孫がね、とにかく可愛くて、可愛くて、大好きです。会いに来てくれた時は必ず手料理を振舞っていました。「おばあちゃんの作るお寿司は美味しい！」って喜んで食べてくれていたんです。

■ショートみどりいでの生活

ショートでの生活はすごく楽しいんですよ。病気になった時でもすぐに治してくれるから感謝しております。職員さんも皆優しいし、良くしてくれるんですよ。

いつもニコニコの
笑顔は昔から
だったんですね♪

お話が大好きで、いつもニコニコと穏やかな笑顔をされている峯岡様。峯岡様の笑顔に私達スタッフはとても癒されています。これからもお元気で楽しく過ごしていきましょう。

（大村　まい）

若竹句会　八月作品抄　信廣高陽　選　（平成二六年）

朝顔や　どちらを向いて　咲くのやら　河野　一枝

〔寸評〕朝顔のつるの先を上から見ると、時計の針と逆に左巻きに動いていく。これは、つるの先が固いものに触れたときに現れる。したがって、巻きついたつるを巻き戻して右巻きにしておくと、その先は、また左巻きに変わってしまう。

（作例）朝顔やおもひを遂げしごとしぼむ　日野草城作

中元の　送る先なき　気の安さ　石原　守恒

〔寸評〕中元は年末と同様に一年間の取引上の決算期で、商業上の取引をスムーズにするために贈答が行われた。これが一般の交際の中にもおよび、両親、仲人、名付け親、知人などに日ごろの世話を感謝し、暑中見舞いを兼ねて挨拶に行くという中元の贈答の慣例を作り上げた。また、お盆の贈り物として新盆の家には提灯など精霊への贈り物をする習慣もある。虚礼は好ましくないが、心のこもった贈り物は社会生活のひとつの潤滑油ともいえる。と、いうことも忘れないで…

祖父運ぶ　餌の時刻を　知るすずめ　西　とし子

〔寸評〕「じじ」は作者のご主人。西さんのお庭にはたくさんの植木があり、小鳥も喜んで寄ってくるそうです。中でも、雀はご主人の給餌時刻を察知してやってくるそうです。これもお孫さんと同様「じいじい」とさえずりながらやってくるのでしょう。

墓参りで　ま逢うも　今更名前　聞けもせず　早木サチ子

〔寸評〕墓参り　今更名前　聞けもせず　省略は俳句の命です。

萩の夜　鈴虫の声　すばらしい　大畠　兵司

〔寸評〕萩の夜、鈴虫はいずれも秋の季語で季重なりです。どちらか一つに絞りましょう。

（作例）まだ鳴かぬ鈴虫忘れられさうに　汀子作

流れ星　自分の気持ち　伝えたい　横田　ハルエ

〔寸評〕子どもの頃、流れ星が消えるまでに願い事を言えたら、願い事が叶えられると聞いたが、肉眼で見ることができるものには限りがあり、自分の気持ちを伝えることはほとんど不可能では…。残念！

七夕に　会えたよろこび　皆笑顔　松村キミエ

〔寸評〕さすがに古歌や古詩におけるような牽牛・織女になり代わって、その思いを述べるような句は影をひそめ、七夕の行事の実情に即したものが多くなりました。「皆笑顔」が明るい！

（作例）七夕やまだ指折って句をつくる　不二男作

〔選者　吟〕

蟻の列　目配せをして　急ぎをり　信廣　高陽

ハロー
Hello, フレッシュマン 2
新入職員紹介のコーナー

まやるちょーく
介護職　半田（はんだ）　崇一郎（そういちろう）さん

4月にあすかに仲間入りした、新入職員のご紹介をいたします。

Q.この職種を選んだのは？

A.　小さい頃から「人と関わる仕事」をしたいと思い、大学では福祉について学びました。利用者様に毎日が楽しいと思える生活を送っていただきたいと思い、この仕事を選びました。

Q.仕事を通じて何か新しい発見はありましたか？

A.　それぞれ何か「こだわり」をもっておられるということを、利用者様と関わる中で知ることができました。利用者様がそれぞれもっている「こだわり」を意識し、日々のお手伝いをさせていただきたいと思っています。

Q.職場で心がけていることは何ですか？

A.「笑顔」です。まやるちょーくに来たからには、笑顔でご自宅へ帰っていただきたいと思っています。私が笑顔でいることで、多くの利用者様にまやるちょーくは楽しい！面白い所だと思っていただけるのではないかと思っています。

Q.かかせない『仕事道具！』を教えて下さい

A.　3色ボールペンとメモ帳です。先輩方に聞くことが多いので、何を聞くのか明確にする時も赤や青で書いた所を見て、質問したり、聞いたりしています。色々なことに使うのでいつも持ち歩いています。

Q.部署の雰囲気や先輩方のフォローなどはどうですか？

A.　まやるちょーくはとても明るい所です。そして、とても元気になれる場所だと思います。先輩方に相談したり、ご自身の体験を聞いたり、的確なアドバイスをいただいています。少しずつではありますが、成長させてもらっています。

Q.これからの抱負をどうぞ

A.「あんたになら任せられる」「あんたになら話せる」と利用者様に言っていただける様な職員になりたいと思っています。これから一歩一歩前に進んでいきたいと思います。

これからも素敵な笑顔で、みなさんの笑顔をどんどん引き出してくださね。

常に笑顔を心がけています★

“レジデンスあすか”は医療法人あすかのサービス付高齢者向け住宅です。医療ニーズに対応することはもちろん、介護が必要な高齢者にいつまでも自分らしく楽しみのある生活を送っていただくための住宅です。

心豊かに毎日をお過ごしいただけます

菜園作りやお茶などを楽しめるベランダや、家族や友人とゆったり過ごせるエントランスホール、さまざまな活動ができるサロン、シャンプー台を備えた美容スペースもあります。また、事業所内保育所があるので、保育所に通う小さな子どもたちとの触れあいもあります。

自分らしい当たり前の生活を継続することができます

どんなに要介護度が高くなってもデイサービスや訪問介護を利用することで、自分らしい当たり前の生活を継続することができます。肩までゆっくりつかれる浴槽、自らの力による排泄ができるための設備、道具選びにこだわりました。

医療法人あすか 開設準備室
☎ 082-830-5322
医療法人あすか　検索
【受付時間】月～金 9:00-16:00

館内案内

5F	サービス付き高齢者向け住宅(35戸)
4F	サービス付き高齢者向け住宅(35戸)
3F	短期入所生活介護(ショートステイ)(25床)
2F	通所介護(デイサービス)／事業所内保育所
1F	居宅介護支援事業所(ケアマネージャー)／訪問介護(ヘルパー)

サービス付き高齢者向け住宅 利用料金

家賃	60,000円（敷金120,000円）※居室は18.6～19.2㎡
共益費	25,000円
生活支援サービス	23,000円
食事提供サービス	46,800円（30日あたり）
合計	154,800円

※介護保険サービスをご利用の場合は、別途必要になります。

～　医療法人あすかの経営理念　～

『　感謝　尊厳　謙虚　誇り　』

医療法人あすかは、地域の患者様、利用者様との出会いに感謝し、信頼される法人として常に最善の医療、看護、介護を提供することを使命としています。私たちの仕事は、人の尊厳を守り、人の人生によりよい影響を与え、支えていくことです。私たちは、心を込めて仕事をします。私たちは謙虚であり、仕事に誇りを持ち、社会に貢献していくことを喜びとしています。

医療法人あすかの医療・介護関連施設

緑井3丁目20-1
あすか居宅介護支援事業所
082-830-5177
リハビリデイ・ポジブルみどりい
あすか病児保育室
児童デイサービス　ぱる　みどりい

緑井3丁目10-28
児童デイサービス　ぱる　びしゃもん

緑井2丁目12-25
高橋内科小児科医院
デイサービスセンター　まやるちょーく
通所リハビリテーション　すてっぷ
ショートステイ　みどりい
小規模多機能型居宅介護事業所　つどいの家

毘沙門台東1丁目24-16
デイサービスセンター　しゅりあちょーく
デイサービスセンター　野ばら

あすか療養センター　緑井3丁目40-30
毘沙門クリニック
ショートステイ　いわや
デイサービスセンター　野の花

【編集者のつぶやき】

11月1日（土）のあすかケアプラザのオープンに伴い、完成内覧会を開催いたします。10月10日（金）（医療・介護関係者向け）、10月11日（土）（一般の方、地域の方向け）いずれも10時～15時で行います。ご多忙中とは存じますが、ぜひ一度いらしてみてください。みなさまのご来場を、職員一同お待ちしております。